

# すずきのこ



尚綱大学附属こども園

## 年長組の保護者の皆様

### ご卒業おめでとうございませす

梅の花が美しく咲き、時折うぐいすの鳴き声が聞こえるようになりました。園の玄関に聳える八重桜も最近の温かさと相まって、日に日につぼみが膨らんできています。まだまだ寒い日が続いていますが、それでも確実に春の足音が聞こえてきて、なんだか心まで軽くなってきました。



さて、令和五年度の園生活も残すところわずかとなりました。この締めくくりの時期に、一人一人の園児が一段とたくましい姿を見せてくれることは、共に過ごすものとしてこれほどうれしいことはありません。先日実施された生活発表会の姿はまさしくそうでした。劇や合奏、合唱に取り組む園児たちの姿は自信にあふれ、表情には力強さを感じ、自分が主役として

この発表会を成功させたいという覚悟が伝わってきました。とはいえず友達と一緒に作り上げていく過程では様々なことがあったはずですが、楽しさとともに、意見や気持ちの食い違い、あるいは我慢しなければならぬこともあったことでしよう。しかし、そのような体験こそが、園児たちの心を一回りも二回りも大きくしてくれたのだと思えます。

葛藤体験は園児たちの成長にとって大切であり、あなたも桜の木が冬の間眠っているように見えて、実は春先の生長に向けて多くの溜め込みをしていることに通じているように思えます。私たち大人は、この溜め込みの時期や経験を温かく見守り、豊かな心の成長につながる適切な援助を行っていく役割を担っています。園児は桜と異なり、一斉に花開くとは限りません。咲き

方もさまざまです。だからこそ、園児の力を信じ、見守り、待ち、心をかけて接したものだと考えます。

日々、教職員一同園児たちの関わりを通して多くのことを学ばせていただきました。

また、その後ろには保護者の皆様の暖かな眼差しが注がれていたことも感じておりました。改めて皆様のご理解・ご協力を深く感謝申し上げますとともに、お子様のご卒業に心からお祝いを申し上げます。

## 親の葛藤

園児は葛藤体験を経て成長していくと申しましたが、それは親も保育者も教員も同じです。親も指導者も一人で抱え込まずに誰かを頼り相談し、皆で園児のことを考えていくことが大切なことです。

先日、世界卓球の女子団体戦で準優勝になった日本代表の平野美宇選手のお母さん、平野真理子さんは、教員経験を経て、山梨で子どもたちを対象に卓球教室を開いておられます。教室の様子を以前テレビで視聴したのですが、子ども

たちは主体的に考え楽しく工夫しながら学んでいました。

平野真理子さんは「指導は自分だけでなく、複数で。自分の指導能力や経験は最強だとは思っていない。自分一人で抱え込んでしまうのはあまりいいことだと思っていない。だから私の(指導で)足りないところはほとんど意見を言ってもらおう。」とおっしゃっていました。

また親は、子どもをどう叱ればいいのか、葛藤することも多いことでしょう。平野さんは、著書「美宇は、みう。」の中で、「子育てをしていると、我が子についてついイライラしてしまうことって、ありますよね。：私もそんな風に感情的な言葉を娘たちにつけ、自己嫌悪に陥った経験は数知れません。でも、だからこそ人生の先輩や頼れる友人が教えてくれたことがたくさんあって、何とか母親業をしてこられました。」

さじ加減が難しい、子どもの褒め方と叱り方もその一つでした。その中で、特にこれだと思うポイントが三つあります。

- 一、褒めることと叱ることのバランスは三対一
- 二、「何を」と「なぜ」をしっかりと伝える

三、今、その時がチャンス。褒める時も叱る時もその場で、が鉄則と述べておられます。

親も保育者も、頭ごなしでなく、子どもの話を丁寧に聞きながら時期を逃さず褒めたり叱ったりすることが大切なことだと思います。

昨年末に一号保護者の方に園児募集に関するアンケートをとらせていただきました。その中でのご要望をもとに、職員で協議し、次年度以下のように取り組んでいく予定です。

- 一、お弁当の日について  
お弁当を園で食べることは保育の上で意義のあることだと考えていますが、今年度の実施回数から五・六回削減し、平均月一回程度とします。
- 二、午前中保育について  
保育の質の向上や実習指導等のために午前中保育の日の午後、職員研修を行っていますが、個人面談を夏休みに実施するなどしながら回数削減に努めます。
- 三、一号預かり保育について  
実施日数を増やし、午前中保育の日においても給食を提供します。また手続きの簡略化に努めてまいります。

この三点以外でも、次年度またはその翌年度にかけて、改善を図って参ります。その際は改めてお知らせいたします。ご協力誠にありがとうございます。